

GIGAスクール構想のもとでの 中学校外国語科の指導について

GIGAスクール構想のもとでの【中学校外国語科】の指導においてICTを活用する際のポイント

1. 新学習指導要領（中学校外国語）とICT活用の関係

「1 目標」

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動を通して**、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（以下省略）

「3 指導計画の作成と内容の取扱い（2）キ」

生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、**生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図る**ようにすること。

2. 外国語教育におけるICT活用の主な利点

■ 言語活動の更なる充実

- ・英語話者との「本物のコミュニケーション」の機会の提供
- ・小規模校の生徒にとっての他校生徒や、学校規模を問わず日頃の授業では交流がない他学級の生徒等、多様な他者とのコミュニケーションの機会の提供
- ・電子メールやSNSを用いた実践的なやり取りの実現
- ・「聞くこと」や「読むこと」の言語活動におけるオーセンティックな教材の活用

■ 興味・関心の喚起と指導・評価の効率化

- ・多くの生徒が日常生活で使用していると思われるSNS上でのコメントによるやり取りを授業に導入することによる学習意欲の喚起
- ・言語活動を行うために必要な言語材料について理解・練習することを、自分のペースで進めるための教材として活用
- ・プレゼンテーション機能等の活用による板書や説明時間の短縮と、それによる言語活動が中心となった授業の促進
- ・パフォーマンステスト等評価への活用

中学校・第3学年・外国語科 「町紹介をしよう」①

活動のねらい

ALTの家族が来日するにあたって、自分たちの町の魅力が伝わるように、家族一人一人の好みなどを踏まえた町の紹介文を書くことができる。

ICT活用のポイント

各自が書いた文章についてコメント機能を使ってオンラインでやり取りをさせることにより、複数人での即時的・実践的なコミュニケーションをさせることができ、それにより紹介文の内容面（表現内容の適切さ）と言語面（英語使用の正確さ）を主体的・対話的に学ばせることができる。

帯活動・導入・課題の提示

紹介文の作成及び
学習支援ソフト等への投稿

互いの紹介文を読み合い、
「内容面」と「言語面」からアドバイス

教師からのフィードバック

紹介文の再構築

事例の概要

○紹介文の作成及び学習支援ソフト等への投稿

決められた時間内に、町の紹介や自分の考えなどをICT端末を用いて作成し、学習支援ソフト等に入力する。

○互いの紹介文を読み合い、「内容面」と「言語面」からアドバイス

入力された紹介文を生徒同士で読み合い、以下の①、②について、コメント機能でやり取りする。

- ①感想（英語で）
- ②内容面と言語面からのアドバイス（日本語で）

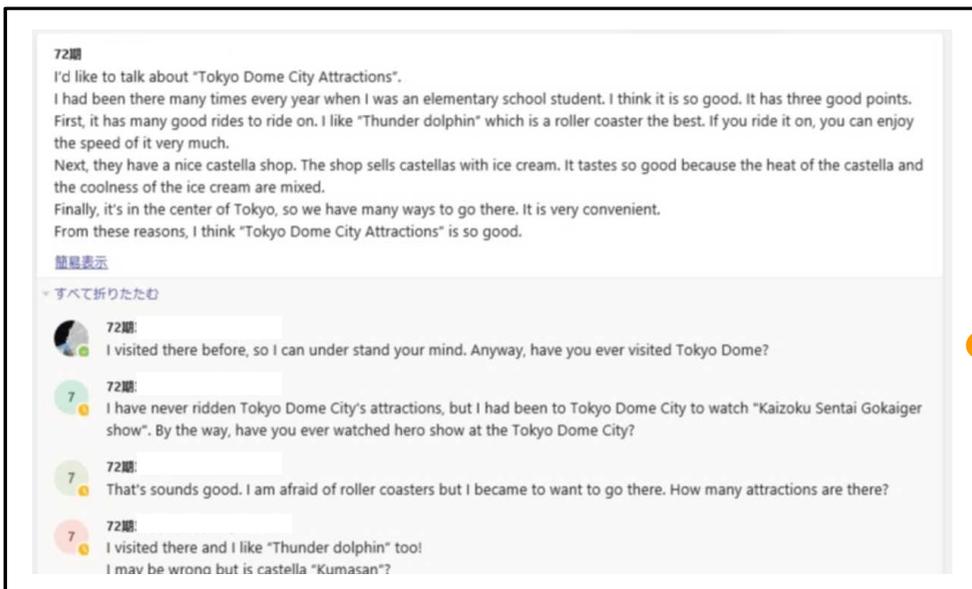
○教師からのフィードバック

教師は上記①、②に関して、多くの紹介文にみられる汎用的な改善点や、本言語活動における目的・場面・状況に応じた適切な表現内容及び多様な既習表現の活用方法を取り上げ、全体に指導する。

中学校・第3学年・外国語科 「町紹介をしよう」②

～コメント機能を使った「書くこと」における「内容面」と「言語面」に関する学び～

【投稿された紹介文についてやり取りが行われている画面】



【自分が投稿した紹介文に対する感想等を読んでいる場面】



- ALTの家族の好みなどに合わせて、町のどこを紹介するかやその理由などについて投稿した自分の考え（上半分）と、クラスメイトからの感想（下半分）がコメント形式で表示されている。読んでいる間も新たな感想が続々と表示されていた。
- このような活動は、日常生活で使用している生徒が多いと思われるSNS上でのやり取りと近いため、**実生活に合わせた形での実践**になり、この活動を楽しんでいる生徒が大変多くいた。

（留意点）

- 自分の考えを投稿する時間を決め、時間がきたら途中でも投稿させる。
- コメントのやり取りに全員が取り組めるよう、一文または単語だけでもよいこととして、まずグループ内の友達の紹介文にコメントを投稿させることとする。

- 日頃交流しないクラスメイトからの返信内容が気になり、その内容を積極的に確認し合ったり、返信を書くために文章の書き方や表現等を仲間に尋ねたりするなど、**「読むこと」や「書くこと」の言語活動への必然性と意欲**が非常に高まっていた。

- クラスメイトからのポジティブな感想や、更に知りたいという質問などを即時的に読むことで、紹介文の**再構築への意欲化や見通し**をもたせることができていた。

（クラスメイトからの返信例）

- I visited there before, so I can understand your mind. (原文ママ)
- Have you ever watched hero show at the Tokyo Dome City? (原文ママ)

育成を目指す資質・能力

単元の目標：「私たちの町へ訪問してもらえるように紹介しよう」
話すこと [やり取り] イ 日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

ICT活用のポイント

地域の留学生を同時双方向でつなぎ，相手と英語で即興的に質疑応答するやり取りを目指す。

単元の目標を児童と共有

グループで紹介文を考える

【第●時】

模擬交流にチャレンジ

【第●時】

留学生に自分たちの住んでいる町を紹介する

事例の概要

- 単元の終末で，自分たちの町の良さを留学生に英語で伝えることができる生徒の姿を願い，「私たちの町へ訪問してもらえるように紹介しよう」というLesson Goalを設定し，実際に海外から来た方々と英語でやり取りするという目標を生徒と共有した。
- 遠隔でつながる小グループごとに，自分たちが住んでいる町を紹介文について考えたり，質問された時のために，やり取りの内容を考えたりした。
- 小グループごとに，ウェブ会議ソフトでつながり，模擬交流を行った。相手のグループが紹介した内容に対してその場で質問するなど，即興的なやり取りの練習をした。
- ウェブ会議ソフトでつないだ留学生に，自分たちの町に訪問してもらえるよう町の良さを紹介をした。紹介した内容や日本の文化等についての質疑に，英語で即興的にやり取りした。

中学校・第3学年・外国語・領域統合型の特設単元 ②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



青字：ICT端末を利用するポイント

赤字：児童生徒や教師にとってのICT活用のメリット

【活用場面①（第●時）】

単元終末で地域に住む留学生に「私たちの町へ訪問してもらえるように町の紹介をする」ために、ICT端末を用いて、小グループごとにウェブ会議ソフトでつながり、模擬交流を行う場面

- 相手のグループが紹介した内容に対して、その場で質問するなど、留学生とのやり取りを想定した即興的なやり取りをすることができた。

【活用場面②（第●時）】

実際にウェブ会議ソフトで留学生とつながり、自分たちの町に訪問してもらえるように町の紹介をする場面

- これまでは留学生を招いて話を聞くことが多かったが、ICTを活用することで多くの留学生と交流できるようになり、少人数でやり取りが可能になり、一人当たりの発話量が増加した。
- 留学生と会話をする場面では、ICT端末を使い、空間を越えてやり取りすることで、生の英語の発音や留学生の多様な文化に触れることが可能になった。
- 住んでいる町のことだけでなく、留学生の趣味や興味を抱いている日本のことなどについても、即興的にやり取りをすることができた。

【活用したソフトや機能】ウェブ会議ソフト

中学校・第3学年・外国語科「おすすめの海外都市を紹介しよう」①

育成を目指す資質・能力

茨城県提供

クラスの友人や先生に、夏休みに海外旅行を楽しんでもらえるよう、おすすめの海外都市を紹介することができる。
(話すこと [発表] イ)

ICT活用のポイント

音声入力機能やクラウド上での共同編集機能を活用することで、英文作成や発表練習などの個別最適な学びと共同編集機能を活用した協働的な学びを取り入れることができるとともに、内容面（表現内容の適切さ）や言語面（英語使用の正確さ）、音声面を意識することにつながり、生徒の自律的な学習を促進することができる。

単元の目標と学習の確認

ペアでやり取り

発表原稿作成

共同編集

発表練習

プレゼンテーション

事例の概要

○単元の始めに単元終末の言語活動や単元の目標、学習内容を学級全体で確認することで、見通しをもつ。

○本単元の言語材料（現在完了形経験用法）について学ぶとともに、教科書本文の概要や要点を捉える。

○プレゼンテーションの作成

・ペアで「おすすめの海外都市」というテーマでやり取りを行う。

・発表原稿作成

ICTを活用して各自が情報収集をし、原稿を作成する。

・クラウド上での共同編集

クラウド上でグループごとにデータを共有し、共同編集を行う。

必要に応じて、リハーサル機能での録音も実施し、確認をし合う。

・発表練習

音声入力機能を活用し、自身が作成した英文の発音等を確認する。

指導者は、机間指導をしながら生徒の様子を観察し、個々の生徒のつまずきや生徒の興味・関心等に応じて個別の支援を行う。

○プレゼンテーション

プレゼンテーションソフトを活用したプレゼンテーションをグループごとに実施する。プレゼンテーションの後には、その内容について質問をし、話すこと [発表] と話すこと [やり取り] の領域統合の言語活動を実施する。

中学校・第3学年・外国語科「おすすめの海外都市を紹介しよう」②

【クラウド上での共同編集】

原稿
前置き
Hi everyone. Ladies and gentlemen, boys and girls. We will start announcing our group from now on.
We will introduce about Cuba.
It has many beautiful scenery.
We will introduce two places. ★
ハバナ旧市街
The first is Havana old town. ★
There are many colonial buildings in the old town created by the Spaniards, and you can enjoy it just by strolling around for no purpose. You can see colonial landscapes and nice view that you can never see in Japan. ★
Also, the classic car is recommended.
Experience the world of cinema in a Cuban classic car.
Most of it cars are taxis. ★

クラウド上のグループ原稿データ
※作成者ごとに色分けされている

【効果的に活用するためのポイント】

クラウド上で発表グループごとに原稿及びスライドデータを共有し、共同で編集する。

【ICT活用のメリット】

<生徒側>

- ・必要に応じて仲間の表現を見ることができるので、流れを意識した構成や表現の工夫をすることができる。
- ・学校外でも編集できるため、休校時でも自宅からリアルタイムで共同編集に参加することができる。

<教師側>

- ・クラウド上のデータを常に確認できるため、学習活動の過程でのつまずきなどに対して、効果的に指導ができる。
- ・ポートフォリオによる評価として活用することで、より効率的で充実した評価ができる。

【音声入力機能を活用した学習】



教室で音声入力をしている様子

the first is Havana old town.
there are many colonial buildings in old town created by the Spaniards.
and you can enjoy it just by stroll around for no purpose.

入力された英文



自宅で発表の練習している様子

【効果的に活用するためのポイント】

音声入力機能を効果的に活用するために、ヘッドセットを活用する。

【ICT活用のメリット】

<生徒側>

- ・書き起こされた文章を自分で確認できるなど、その場で音声についてのフィードバックを受けることができる。
- ・発音や英語特有のリズムなどを意識しながら話すことにつながる。
- ・自宅でも学校と同様に取り組むことができ、英語を話すことへの意欲が高まる。

<教師側>

- ・学級全体での共通の間違い等に気付くことができる。指導の際は、全体で共通の間違い等を共有し、確実に指導をすることができる。

【活用したソフトや機能】文書作成ソフト、プレゼンテーションソフト、音声入力機能

中学校・第3学年・外国語科「おすすめの海外都市を紹介しよう」③

【プレゼンテーションの場面】

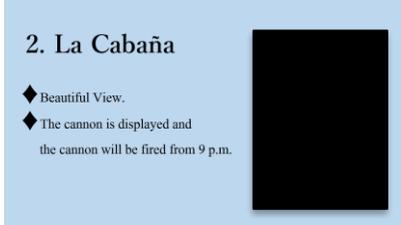


プレゼンテーションの様子

【ICT活用のメリット】

<生徒側>

- ・準備段階で動画を撮影し、確認することで、よりよい発表にすることができる。
- ・動画を録画し、保存することで、ポートフォリオとして活用でき、他の単元の学習の際にも自分の学習を振り返るなど、活用することができる。



生徒の作品

生徒作成の原稿

The second is La Cabaña. Have you ever heard La Cabaña ?

La Cabaña has a beautiful view. It is situated next to old fortresses. It was built between 1589 and 1630. Today it is usually combined on tourist itineraries. In addition, the cannon is displayed, and the cannon will be fired from 9 p.m.

【生徒の変容について】（単元終末のプレゼンテーションの発表で評価）

	音声面		言語面		内容面	
A	発音、強勢、英語特有のリズム、すべてに注意しながら発表できた。	84%	ほとんど誤りのない英語で発表することができた。	84%	根拠となる情報やデータを取り入れ、展開や構成など流れを意識した内容であった。	84%
B	発音、強勢、英語特有のリズムのいずれかに注意しながら発表できた。	11%	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英語で発表することができた。	16%	根拠となる情報やデータを取り入れた内容であった。	16%
C	「B」を満たしていない。	5%	「B」を満たしていない。	0%	「B」を満たしていない。	0%

○単元を通して、音声面や言語面、プレゼンテーションの内容面についての指導や生徒の実態に応じた学びを継続したことで、単元終末のプレゼンテーションでは、ほとんどの生徒がB評価以上となった。

【単元の振り返りシートより】

- ・音声入力機能で練習することで英語らしいリズムで読むことやキーワードを強く読んだりすることなどを意識することができた。
- ・共同編集をすることで、常に友達からアドバイスをもらえるなど、流れを意識してプレゼンを作成することができた。グループのみんなと作成して、新たな考えに気付いたり、自分の考えを広げたりすることができた。

中学校・第3学年・外国語科「おすすめの海外都市を紹介しよう」④

茨城県英語プレゼンテーションフォーラム（中学生の部）の概要（令和4年度）

中学校英語科の授業改善並びにグローバル人材の育成を目的に、公立中学校全校での参加を基本

発表テーマ

茨城県内に住む外国人の方々に、茨城の魅力をもっとよく知ってもらうために、私たちがいばらき観光大使として「いばらきマイクロツーリズム」を伝えよう！

英語プレゼンテーションフォーラムの流れ 例：プレゼンター側【A中学校】、リスナー側【B中学校】

A中学校のプレゼンテーション



テーマに沿ったプレゼンテーション
※プレゼンテーションソフトを活用

シンキングタイム



プレゼンテーションを聞いてさらに
聞きたいことをグループで相談

シェアリングタイム（A、B両校でのやり取り）



プレゼンテーションの内容について
英語でやり取り

審査基準について

各参加校がプレゼンター側とリスナー側の両方を一度ずつ行い、その合計点で順位を決める。

役割	プレゼンター				リスナー
	Content (内容面)	Delivery (言語面)	Effective ness (資料作成)	Sharing Time	Sharing Time
観 点					
配 点	40	10	10	10	30

【参考】

茨城県英語プレゼンテーションフォーラムダイジェスト動画

URL : <https://youtu.be/B3HYenr0024>



中学校・1学年・外国語科 ALTに日本独自の物や行事を説明しよう ①

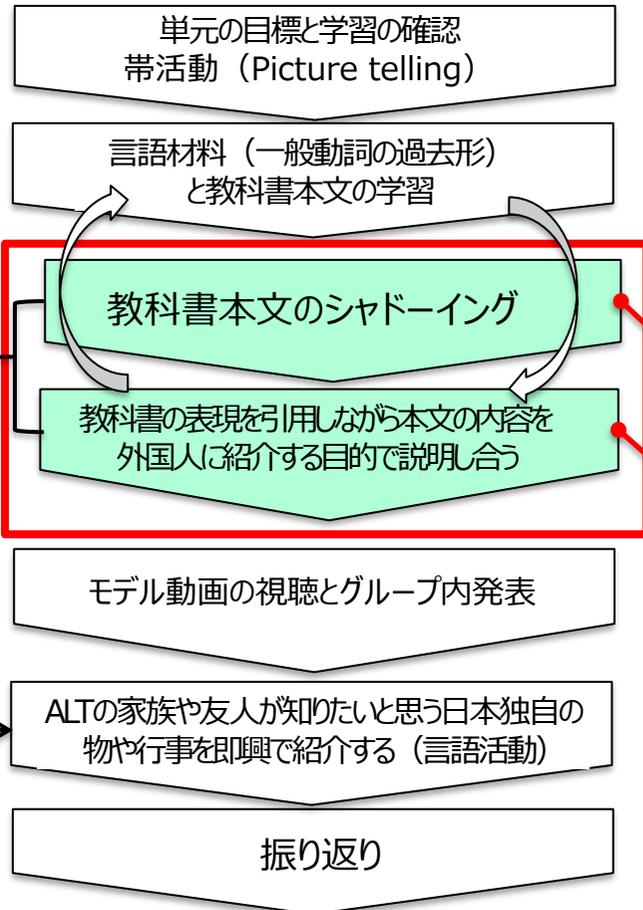
育成を目指す資質・能力

新潟県提供

来日経験のないALTの家族や友人が知りたいと思う日本独自の物や行事について、ALTが説明できるようにするために、事実を整理し、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。（話すこと〔発表〕ア）

ICT活用のポイント

- ・日本独自の物や行事の説明に必要な表現を身に付けるために、**学習者用デジタル教科書の読み上げ機能**を使い、シャドーイングを個別やペアで実施
- ・即興で話す力を高めるために、**学習者用デジタル教科書の書き込み機能**を使い、引用できそうな表現に線を引きながら、教科書本文の内容を即興で説明し合う活動を実施



事例の概要

- ・単元の目標と学習する内容を確認し、見通しをもつ。即興で話す力を継続的に高められるように教科書の挿絵等について説明する帯活動 (Picture telling) を実施
- ・本単元の言語材料 (一般動詞の過去形) について学ぶとともに、日本独自の物や行事について書かれた教科書本文の概要や要点を捉える。

● **言語活動に必要な表現の定着、本文の理解促進、聞く力、話す力を総合的に高めるために学習者用デジタル教科書を活用したシャドーイング活動を実施**

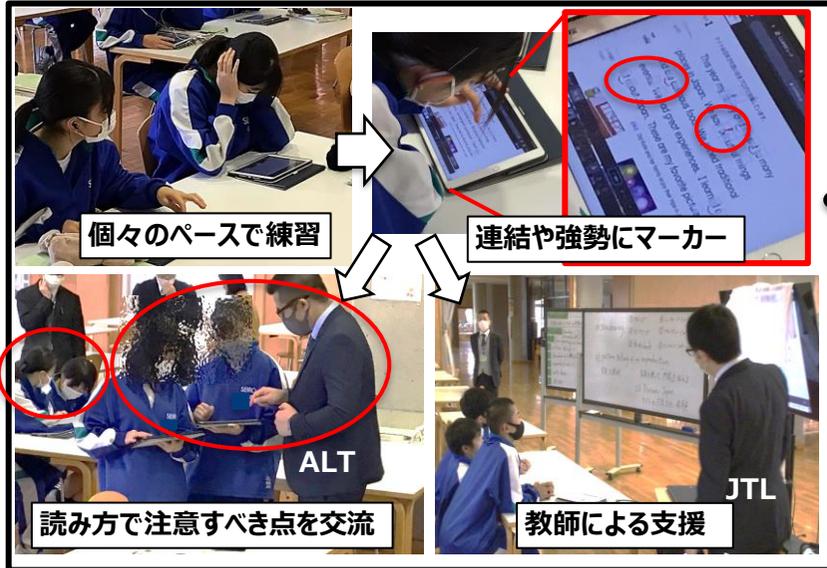
● **シャドーイングで読んだ内容を外国人に紹介する目的で、本文中の表現を引用しながら即興で説明し合う。** (単元終末の言語活動に類似した言語活動として実施する)
※教科書学習・シャドーイング・本文説明を繰り返し、単元終末の言語活動につなげる。

・教師が作成したモデル動画を視聴し、良い例と悪い例の比較から伝える内容や伝え方等を確認。教師が指定した日本独自の物について、グループ内で即興で伝え合う。

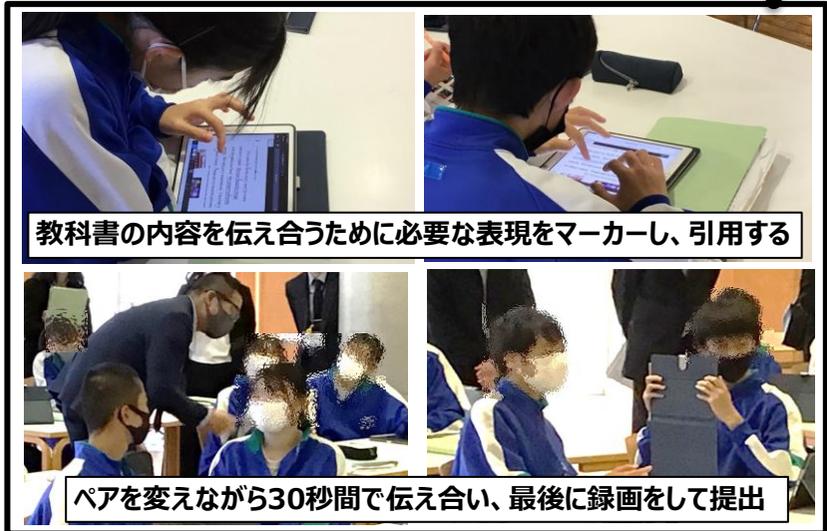
- ・単元終末の言語活動の実施
- ・単元の学習を振り返る。

中学校・1学年・外国語科 ALTに日本独自の物や行事を説明しよう ②

【シャドーイング活動の場面】



【読んだ内容をペアで説明し合う場面】



シャドーイング活動を基に、外国人（登場人物のケイト）に日本文化のよさを発見してもらうという目的・場面・状況等で、本文の内容を30秒間で説明する。

【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

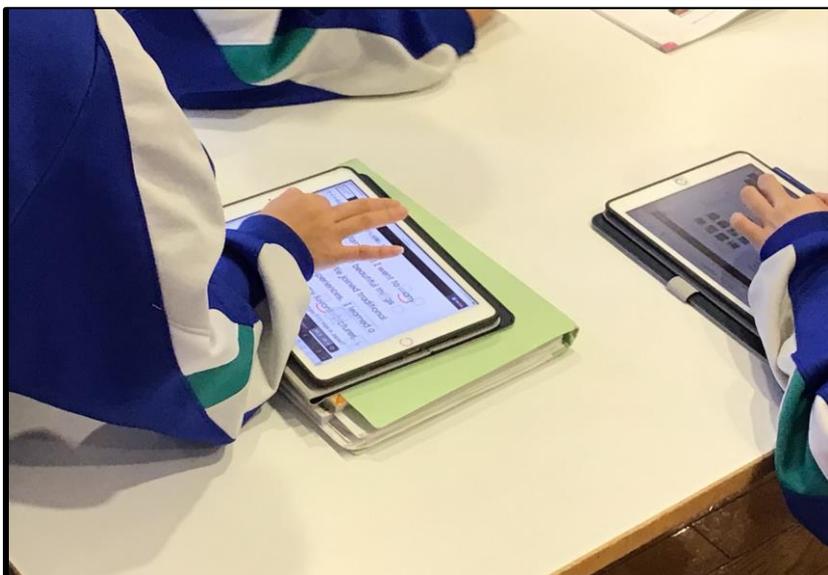
- ・シャドーイングの意義を説明し、練習をした上で、**家庭学習として自主的にシャドーイングに取り組むように促し**、授業の学習とつなげる。
- ・シンクロ・リーディングやコンテンツ・シャドーイングといった様々な活動メニューを準備し、**個に応じた学習**ができるようにする。
- ・シャドーイング活動の効果を高めるために、**デジタル教科書に書き込んだメモやスタンプを生徒同士で共有**し合ったり、支援を求める生徒に**教師がシャドーイングの指導**を行ったりする場を設ける。
- ・本文の内容を自分の言葉で話すことができるように**デジタル教科書の挿絵を見せながら説明**する。
- ・説明に必要なだと思ふ**語句や英文に線やマーカーを引く**。
- ・ペアを変えて伝え合い、最後に**音声**を録音し、**書く活動**につなげる。

【ICT活用のメリット】

- ・読み上げ機能を使うことで、**自分に合った活動メニューを、自分のペースで、何度も取り組む**ことができる。
- ・書き込み機能を使うことで、**読み方で留意する点を視覚化**でき、生徒の実態に応じて**容易に書き足したり・消去したり**できる。
- ・線やマーカーを引いた語句や英文を引用することで、**目的・場面・状況等に応じた適切な内容**となり、**表現の定着**にもつながる。
- ・録音した音声を聞いて書くことで、**表現の正確さの向上**につながる。

【活用したソフトや機能】 学習者用デジタル教科書、カメラ機能

【シャドーイング活動の場面】



【読んだ内容をペアで説明し合う場面】



【教師が見取った生徒の変容等】

＜学習者用デジタル教科書を活用したシャドーイングを通して＞

・多くの生徒は学習者用デジタル教科書の機能を自然に活用できるようになり、**読めない単語やイントネーションなどを主体的に調べようとする姿**が見られるようになった。

・音声機能を使ったシャドーイング活動を取り入れたことにより、生徒は**短時間で教科書本文を何度も聞いたり話したりすることができ、聞く力と話す力の向上**が見られた。

・ICT端末を活用することで容易に反復練習できるため、**既習事項と何度も向き合いながら4技能5領域をバランスよく向上**させることができた。

・**授業と家庭学習をつなげることができる**手立てであり、英語が読めない、リスニングが苦手という生徒の**不安を初期段階で取り除く**ことができるのではないかと考える。

＜教科書を読んだ内容をペアで説明し合う活動を通して＞

・単元のゴール達成に向けて、読んだ教科書の内容を伝える活動をICT端末を使って行ったことで、生徒は**教科書から得た知識や説明方法を参考に、単元終末の言語活動に取り組む**ことができた。

・説明に加え、**自分の考えや感想も合わせて伝える**生徒もいた。

中学校・1学年・外国語科 ALTに日本独自の物や行事を説明しよう④

【生徒Aの振り返り】

<ICTを活用したシャドーイング>

最初は、教科書の音声に全然ついていけなかった。でも、**繰り返すたびに、音声についていくことができた。頭によく入る**のでテスト勉強の時にもやりたい。

教科書本文の構成や語句・表現を用いる（下線部）

【生徒Aの単元終末の言語活動の発話と振り返り】

教科書の構成や表現を活用し、過去形を用いて発表

Shichi-go-san is a Japanese event. It is a special day for child. We go to the shrine. I **took** pictures with my family. Children gets *chitose* candy. It is long. I **ate** it. It's delicious. (原文のまま)

「自分は、日本の行事について英語でたくさん話すことが、最初はあまり出来なかった。だけど、他のみんなの発表を聞いたときに、『これ、いいな』というものがあり、取り入れたら結構話すことができた。（ALTに）七五三はバレンタインデーのように、キャンディーをもらえる日なのかと聞かれて、何て言えばよいのか分からなかった。」

【生徒Bの振り返り】

<ICTを活用したシャドーイング>

最初の時は、聞くのと話すのと両方こなすのが大変でした。音声に追いつけないことが多かったです。最近では聞きながら、**音声**が話していることが**どんな単語でどんな形**なのかも少しわかるようになってきて、**結構スラスラ話せる**ようになりました。

教科書本文の構成や語句・表現を用いる（下線部）

【生徒Bの単元終末の言語活動の発話と振り返り】

値段を伝えるなど、より相手意識がある発表

Dorayaki is a Japanese sweets. It's a pancake with sweet red beans pastes. It's sticky and delicious. You can buy it for about 200 yens. I **ate** it last month. My mother likes it. Let's eat a dorayaki. (原文のまま)

「どら焼きを英語で言うと何になるのかと聞いていたけど、どら焼きはあんこが入っていてあんこは小豆からできていて・・・と考えると理解できたので他のことでも同じようにして考えると楽だなと思いました。甘いや辛いなどの表現に加えてふわふわとかの食感の表現も覚える機会になったのでよかったです。発表は緊張したけど、何とか伝わったようなので良かったです。」

中学校・第2学年・外国語科 Work Experience ①

育成を目指す資質・能力

山梨県提供

登場人物の職場体験について聞いたり読んだりしたことを参考にし、自分の考えなどを友達とやり取りして、職場体験に受け入れてもらう志願書を書くことができる。（「書くこと」イ）

ICT活用のポイント

言語活動及び「言語活動を通した」指導の充実を目指した学習者用デジタル教科書を活用した事例

「英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなど活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること」における学習者用デジタル教科書の利活用（リスニングスクリプトなどの利活用）

※領域統合型言語活動 「聞くこと」・「読むこと」→「話すこと [やり取り] 」→「書くこと」

事例の概要

登場人物の職場体験スピーチやレポートの概要を捉える。
「聞くこと」「読むこと」

職場体験の志願書を書くために、単元を超えて、教科書にある様々な表現内容に気付き、自分にとって必要なものを学習者用デジタル教科書にまとめる。

職場体験について自分の考えや気持ちなどを伝え合い、志願書の表現内容に生かす。
「話すこと [やり取り] 」

職場体験に受け入れてもらうために志願書を書く。お互いの志願書にコメントする。
「書くこと」

○CAN-DOリスト形式による学習到達目標（記録に残す評価・領域）

「読むこと」：日常的な話題やストーリーについて簡単な語句や文で書かれた文章から大まかな内容（概要）を捉えることができる。

「書くこと」：身近な話題について自分の考えや意見・感想などを相手に伝わりやすいように、まとまりのある文で書くことができる。

○単元の概要（授業構想）

(1)登場人物の職場体験スピーチやレポートについての**動画（字幕付きなど）**を見たり本文を聞いたり読んだりしながら、**概要**を捉える。 **※個別最適な学び**

(2)教師は、内容を捉えるための「事実発問」に加え、生徒自身が思考・判断・表現する**「推論発問」**をし、**単元を超えて**様々な表現内容に気付くことができるようにする。

(3)生徒は一定の時間、これまでの**デジタル教科書のコンテンツ（リスニングスクリプトなど）**を**自分自身で選択**し、志願書に書く自分の考えやその理由をまとめる。

(4)生徒同士で職場体験の志願理由などについてやり取りする。 **※協働的な学び**

(5)(3)(4)を生かし、職場体験に受け入れてもらうための志願書を書く。
自分の夢などについても深く考え、**自分の考えを再構築**する。

(6)生徒は、互いの志願書を読み合い、**言語面と内容面からコメント**する。

中学校・第2学年・外国語科 Work Experience ②

【事例におけるICT活用の場面①】



生徒は、学習者用デジタル教科書に色分けをして、下線を引いている。(リスニングの部分にも線を引いている。)

例 赤:概要 青:自分の考えに対する根拠
黄:単元末課題で自分が使いたいと思う表現

【事例におけるICT活用の場面②】



授業動画URL

<https://youtu.be/4InrByel76c>

【学習者用デジタル教科書のメリットを生み出すための工夫】

①登場人物の職場体験スピーチやレポートの動画を見たり、本文を聞いたり読んだりしながら、概要を捉える。
概要部分に下線を引く。/ 各段落にタイトルをつける。
⇒スピーチやレポートの「構成」に気付かせ、自分の志願書に生かす。

②教師はレポート内容を把握するための「事実発問」に加え、生徒自身が思考・判断・表現する「推論発問」(そのページの本文には答えがない)を行う。リスニングスクリプトなどを活用する。

Ex. Will Eri work at an aquarium in the future? ※JTE-ALT
Why do you think so?

A: I think she will work at an aquarium in the future because she likes sea animals and enjoyed her work experience there. What do you think?

J: I don't think she will work there because she is interested in many things. When she was an elementary school student, she wanted to be a chef. So, she will not work there.

⇒当該単元以外の内容も自分の考えの根拠とする。

Ex. Where did Tina work? ※JTE-Student

S: She worked at 老人ホーム.

J: Why did you know that?

S: We heard it when doing the activity on page~.

J: That's nice! Everyone, how do you say 老人ホーム in English?

What did she do and feel? Let's listen again!

⇒リスニングのスクリプトにも着目させ、表現内容を豊かにする。

【本事例における学習者用デジタル教科書のメリット】

⇒教科書本文(文字及び音声)の表現内容を単元末課題において自身のパフォーマンスに生かすことができる。

【活用したソフトや機能】 学習者用デジタル教科書

中学校・第2学年・外国語科 Work Experience ③

【生徒のパフォーマンス例① 同一生徒の変容】

1年生1学期パフォーマンステスト「話すこと[やり取り]」（発話内容）

ALT : Please tell me about yourself.

生徒 : OK. I'm ○○. I'm 13 years old. **I like fruits. I can swim.** My birthday is ○○.

ALT : Great. Are you from ○○ town?

生徒 : Yes, I am. I'm from △△.

ALT : I see. **Do you like listening to music?**

生徒 : **Yes, I do.** Do you like music, too?

ALT : Yes, I do. I like listening to music very much. **Can you play the piano?**

生徒 : **Yes, I can.** But I can't play the drums. Can you play the drums?

ALT : Yes, I can. I can play the drums. I can play the guitar but I can't play the piano.

1年生1学期

I like fruits / music.

I can swim / play the piano.



2年生2学期

I'm interested in taking care of children.

I can't sing, but I can play the piano.

When I was six years old, I started practicing the piano.

I have to study music hard.



I want to go to a nursery school.

I will learn to take care of children.

2年生2学期（本単元末）パフォーマンステスト「書くこと」（原文のまま）

I want to be a nursery school teacher because I like children.

I'm interested in *take care of children.*

I can't sing but I can play the piano.

When I was six years old, *practiced* the piano.

They will enjoy music together.

I have to study music hard.

I want to go to a nursery school. I will *learn take care of* children.

※赤字部分は、生徒が学習者用デジタル教科書に線を引いたり、友達とのやり取りでメモしたりした表現内容



内容面・言語面ともに充実

※イタリックは誤り

中学校・第2学年・外国語科 Work Experience ④

【生徒のパフォーマンス例②】

My dream

I want to go to a swimming school because I'm interested in a swimming coach. When I was 3 years old I started swimming. I didn't like swimming then. But thanks to my coach, I liked swimming. Now I like swimming very much and I can swim well. I have to communicate with many people. I want to learn a good way to swimming.

学習者用デジタル教科書に残したメモから、登場人物のレポートの「構成」を生かし、内容面・言語面の充実を図っている。

【英語教育改善プラン推進事業研究指定校生徒用アンケート（一部抜粋）当該校の結果より】

①R4 5月実施 ②R5 1月実施 ※学習者用デジタル教科書を活用した1年間の変容

1.「そう思う」 2.「どちらかというと思う」：肯定的回答 3.「あまりそう思わない」 4.「全くそう思わない」：否定的回答

肯定的回答の割合

Q 学習者用デジタル教科書の使用が自身の学びに役立っていますか？

A R5 1月調査93.0%

Q 授業では、英語を読んで必要な情報を読み取ったり、概要や要点をとらえたりする活動が行われていると思いますか。

A R4 5月調査89.8% ⇒ R5 1月調査93.0% (+3.2)

Q 授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり、自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていると思いますか。

A R4 5月調査89.8% ⇒ R5 1月調査91.3% (+1.8)

Q 1人1台端末等のICT機器を活用する場面を設定をした授業で取り組んできたことが、パフォーマンステストに生かされていると思いますか。

A R4 5月調査88.4% ⇒ R5 1月調査92.9% (+4.5)

生徒のコメントから

- ・学習者用デジタル教科書は、自分で何度も動画を見たり、音声を聞いたりすることができるので、内容を理解することにとっても役に立ちます。
- ・学習者用デジタル教科書には気軽に線を引いたり、メモしたりすることができます。
- ・先生が教科書で読むべきところを拡大してくれるので、授業に集中できます。

中学校・第2学年・外国語科「My Dream」①

育成を目指す資質・能力

大阪府提供

学級の仲間に、自分の将来の夢について、理由とともに分かりやすく伝えることができる。（話すこと [発表] イ）

ICT活用のポイント

- 単なる「練習」のための「ICT活用」ではなく、**言語活動につなげるための「ICT活用」**を指導者が意識する。
 - － 生徒に自分の課題に応じて練習できるツールとして活用させ、「**個別最適な学び**」の**充実**につなげる。
 - － 指導者が「学習者用デジタル教科書」を編集、アレンジして教材を作ること、生徒たちの「**個別最適な学び**」のさらなる**充実**につなげる。
- 生徒が、「どのような視点に着目しながら言語活動に取り組めばよいか」を意識しやすくして、「**協働的な学び**」の質を向上させる。
 - － 生徒の成果物を共有するだけでなく、指導者によるコメントや添削されている英文や情報も共有することを心がける。

言語活動

(スピーチ 1 回目)

練習

(単語、本文音読)

練習

(リテリング)

言語活動

(スピーチ 2 回目)

事例の概要

【○生徒の学習過程】（▶は指導の留意点）

- 指導者の学生時代に抱いていた「将来の夢」を聞く。
 - ▶本単元の中心となるスピーチ（What's your dream?）のモデルとして生徒に聞かせるとともに、指導者のスピーチ内容に関連したやりとりを生徒たちとも行う。
- 単元のゴールや、ゴールに向かう学習過程、スピーチの評価について見通しをもつ。
- 言語活動（スピーチ録画 / 1 回目）をペアで行う
- 本文の内容を理解した後、単語の発音練習等を、各自で行う【**個別最適な学び**】
- 本文のリテリングをペアで行う。
 - ▶自分のスピーチをよりよいものにするために本文をリテリングしている、という意義を踏まえさせる。リテリングを行う目的（自分のスピーチをよりよいものにするため）を生徒に伝える。
 - ▶「学習者用デジタル教科書」×「ICT端末」で編集したPicture Cardで、習熟度別でリテリングに取り組ませる。【**個別最適な学び**】
 - ▶単にリテリングを行うのではなく、本文にあるスピーチがどのような展開になっているかに気付かせるとともに、どのような展開なら相手により分かりやすく伝わるかを意識させながら取り組ませる。
- 言語活動（スピーチ録画 / 2 回目）をペアで行う。
 - ▶1 回目のスピーチと比較して違いに気付かせ、内容が充実していたり、分かりやすい展開になっていたたりすることを実感させる。

中学校・第2学年・外国語科「My Dream」②



単語、本文音読の練習をしている場面

生徒A：「この文、3つの単語が繋がって1つの発音に聞こえるぞ」

生徒B：「ここでは、特に注意する単語は2つだけだ。この単語に集中して練習しよう」



自分に適したレベルのPicture Cardを選んでリテリングの練習をしている場面

生徒C：「まずは確認のためにレベル1を試してみようかな」

生徒D：「自分には、暗唱はあまり必要ない。今日は、難しいけど今まで習った英語を思い出しながら、少しずつアレンジしていこう。…みんなの英語も参考になるなあ」



作成したPicture Card (イメージ)

学習者用デジタル教科書の挿絵



ICT端末を用いてテキストをレベル別に編集



「個別最適な学び」のさらなる充実

※吹奏楽部のメンバーとしてアンサンブルコンテストに出るために練習している教科書の挿絵

() sister plays the ().
She () to play it () the () ensemble contest.
() () students can play ().

※例) Level 1

- Level 1 : 本文の穴埋め形式
- Level 2 : キーワードのみ数語提示
- Level 3 : 挿絵のみ

「学習者用デジタル教科書」を編集したPicture Cardを活用した学習を通して、生徒の「個別最適な学び」を充実させる

- ◆ 「Level 1」(※左図参照)を選ぶ生徒の多くは、自分なりに英語で表現することにまだあまり自信がない。そのため、まずは本文を暗唱していこうとする。ただし同時に、自身の取組が、あくまでも「暗唱」であり、「リテリング」ではない、という意識ももっている。結果として、ある程度「できた」と感じたら、すぐに「Level 2」に進もうとする姿が見受けられる。
- ◆ 「Level 2」では少しずつ自分なりの表現を使い始める生徒が出てくる。「言語活動」の要素が出てくる段階である。生徒によってかなり表現の「幅」が出てくる。リプロダクションのような英語を残しながら、学級の仲間が使う英語を工夫して取り入れる姿も見受けられる。
- ◆ 「Level 3」では、かなり即興的に英語を使う生徒が出てくる。また自分なりに考えた英語を使って内容を膨らませる生徒もいる。その結果、流暢さが高くなる反面、どうしても正確さに影響が出てくる。その点を補おうと、英文を書いて正確性を考えるような姿も見受けられる。

【活用したソフトや機能】学習者用デジタル教科書、文書作成ソフト、プレゼンテーションソフト

中学校・第2学年・外国語科「My Dream」③

単元終了時における生徒の変容（「振り返りシート」より）

【単元の目標】

学級の仲間に、自分の将来の夢について、理由とともに分かりやすく伝えることができる。

「この単元の学習でできるようになったこと（できなかったこと）は何ですか」

「自分なりに何ができるようになったか」を
生徒自身が意識（メタ認知）する

- スピーチでは自分の夢を文の構成（導入→展開→結論）を考え、展開部分に理由を付け、教科書に書かれているスピーチを参考にしながら、自分の夢を具体的に説明することができた。ただ、少し日本語を使ってしまう部分があったので、もったいなかった。（生徒A）
- だいたい即興的に、自分の夢のことを話すことができました。量はあまり多くなかったのですが、もっと知っている言葉を増やしてより具体的にみんなに伝えたいな、と思います！分からない表現を調べることを少なくして、ある程度、みんなが分かるように伝えることもできました！（生徒B）

・生徒は、自己調整している姿を意識（メタ認知）する

・指導者は、「主体的に学習に取り組む態度」についての「記録に残す評価」に生かすことができる

「なぜできるようになったと思いますか？／できなかったことを克服するために、どのような学習をしますか。」

- このスピーチをする時の発表の構成や、どういう単語を使えば相手に分かりやすいか、という視点で教科書の本文を何回も読んだから、スピーチがうまくできたのだと思う。また、日本語の「あー」や「えー」に対応する“Well...”, “Let’s see...”などの英語を練習して、言えるようにしていきたい。（生徒A）
- この単元で新しく出てきた文法事項で、表現の幅が少し広がったような気がします。即興的にスピーチをするのは難しかったです。その後の質疑応答も、何を聞かれているかすぐに分からないことがありました。復習として、もう一度デジタル教科書を使って、本文を読み込んでいこうと思います。（生徒B）